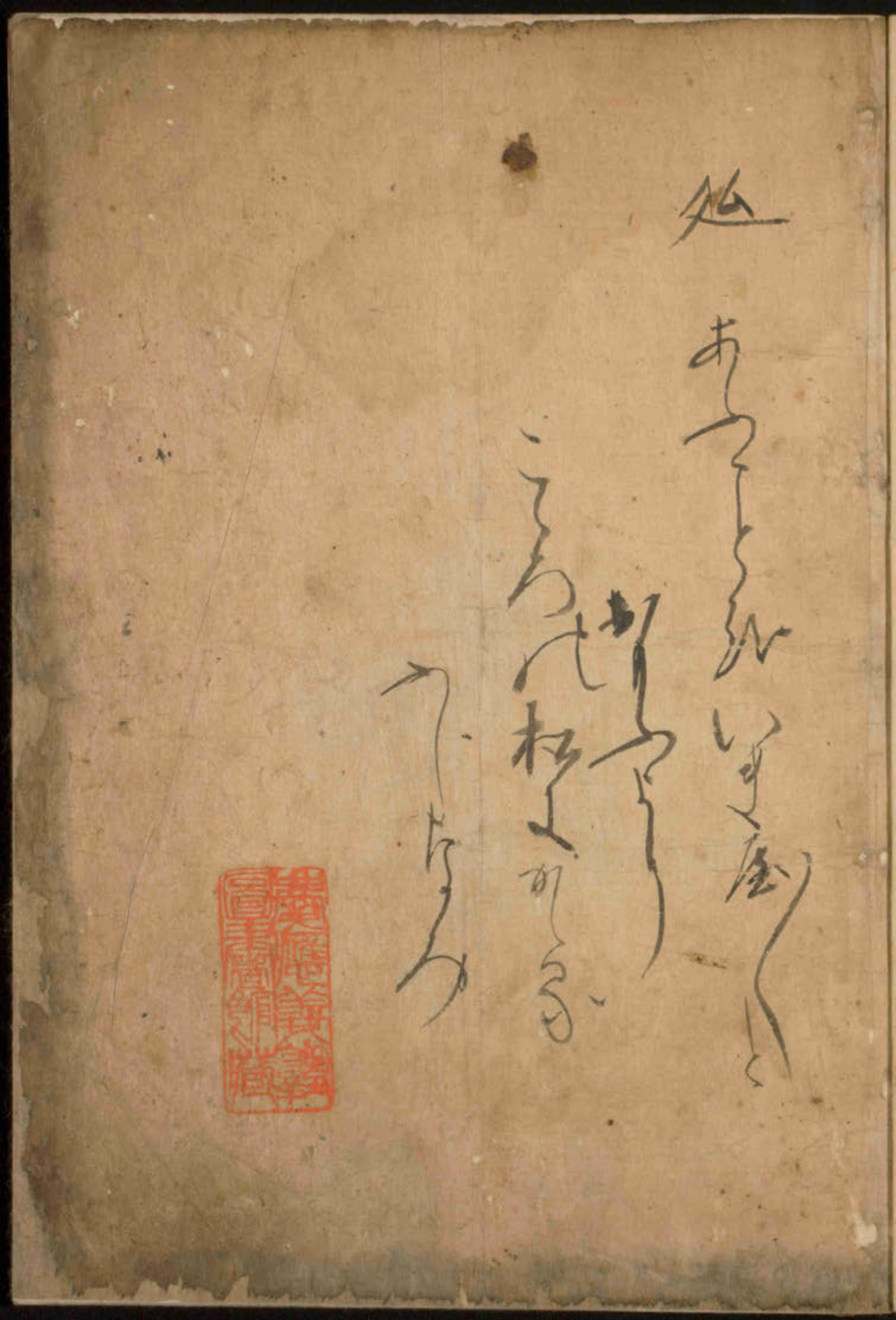

中首のこゝろかこよ。そのこゝろ平家の大将をハ
あきのかゝきよりとこそ申候れ。四ハ家
にかゝ事れかいこゝやとこも常家と申こそまつる
一りん。まゝ座のつ座まれ。おりせらまゝ節ハ
そ。まゝ人の世ハあるゝしまりハ我ハ國をあらた
めつ。まゝ林さん山くかゝや座を居ニ所し。只ハ正ゝ我
なるまゝり事を末代ハ君ゝしとゝなるゝ
一ゝ下れ君ゝ。ちきやとこも我ゝまゝにこゝ
こゝハ世ゝ座ハ所んしやのまゝハ常家ゝ
しきなる所ゝ。忘りなれ。こゝろの系ハ左しや。新
右ゝ所ゝ。前ゝよしや。隠きんむ。忘しん
さゝれ地を忘めし。小なりハ所ゝ所ゝ所ゝ

青龍
白虎
朱雀
玄武

ハ昌ゆきつくとアさまいりけれは常家さこうし
めしさぶ事なりこのかひ清明かなかまいれあへの
屋をちかへ屋をのりに三代のきこゝハ安氏とアふ事
ニ下の吉邊をとうる性をいそきめさしさうへて
安氏屋をてまいりける常家かまいれ給ひし事
いまりまとしめぬ安氏かうかたに不審らしさうハ
し和田の三浦をまちかへりしかうこむきに海
上を三丈斗うめさせて其の浦のうへに五家を
うそ丹れこまりしせさせん事其の日に心ある
か成就とへきりかいかさしうかたかへ吉日と事
浦成就の祈精をしこゝ御れか護りまりをてうへ
安氏こゝそおりせ事まし安氏うけたまいんさ りと

りうゝハ志やしをなりうちきり屋にたくの志かん
きやの祈さしそくれ此こうし二ゝやう猶用さしたん
まして王相をきりハめてかんうし數にあやまり而ハ
なり事まてとしうゝに記とへまいれ不審のさしらし
浦をそかせて詰んせよ一度に此浦成就せし
事の猶に里紙うけうるひアさうへん吉日ハ
三月十八日うきり時ハ辰の一てんこゝそうるひさ
なかりけれ常家さこうしけしさうて関隠事
行をせようゝ事なまいりとアして大和山城伊賀
伊勢情ノ桜津関丹波の国七ケ関の人夫とりん
事むこ屋ゝ志うち屋ゝの君かんせきのとり紙
くりんくと記きりしてて和田の浦浦へてこゝ

八月十五夜のくまもるきり月の小夜中に生れ
しかゝ元めるまでにいそ名月によとこそ名付
草まかんか和歌すりなりびるきり長久とこ
そ雪えられ（しけ）その元めれ八中の易常ゆれ
志んくつるさしかゝ童山の月すめひ多し
志りのうちれハ無さくらかりひ行くまそ月にあま
つまへすりまゝ見ゆるそのとゞさ池の蓮とれあさ
霧まかさ元ひしかゝ見沙給ん姫の姿をみん
き見人おらぶりとよこさるまりしそのまゝハおか
見ありまゝてしまゝ色のうちるハ童菊を
行くめてゞ多のまりすふ色ひ能堂とるかゝあら
寄して十三とアせし蓋つるまそ元とりこそ

ハ正とゝ名ふ十四（さしい）とアせし蓋の春文ハ母ハ
ゆひ行くけし屋の聖をへそうちあるる子愛
の親紙なかめ行くめそてまゝ名ゆるくに丹波
ゆる園山川の庄のせこアす所ハ花むろの四
領めり草ゆるか隠所れめつかんしよハ代和年ゆる
養人（加）隠民とアしてその人の子に夜兵衛射
家包とアしてその年十九ありきりゆ
河内の国こさんやに所領めりまゝ丹波の
のせへうちあるこさんやしり十日斗さふらいゝ
元ハ行まゝ語給さのあまりまゝあしやの
聖をしり立あるく鶴がりをそ志りひゆる家
包何と聞く名月によとみん付行くうつひあ

110X
99
1